

「**軀のくらしの診療所**」が福山市立軀の浦学園で実施された活動を見学しました。

2023年11月6日（月）、軀の浦学園を訪問し、軀のくらしの診療所が実施された地域診断プロジェクトを見学しました。代表の平岩さんの他、東京から「NPO 法人マナビエル」の志田代表理事と「おうちの診療所」の佐々木理学療法士が指導に来られていました。10月に一度オンライン授業を行ったそうで、11月に2日間の対面授業を行います。11月6日は午前にはインタビューワークの練習、午後は街へ出てのフィールドワークでお年寄りに健康についてインタビューを行います。11月7日はそれをもとに課題抽出のワーク（ディスカッションとアクションプランの発表）を行います。今回は、11月6日の午前中の活動を見学させていただきました。

最初は恐る恐る聞いていた子どもたちでしたが、まさるおじいさんに扮した佐々木さんとちひろあばあさんに扮した平岩さんの登場で、段々と引き込まれ手を挙げての質問が多く出ていました。クローズドクエスションとオープンクエスションをマスターしましたので、これだけ質問できれば午後のインタビューは大丈夫でしょう。



軀の浦学園は小中一貫校で5年前に軀小学校と軀中学校が一緒になってできた学校です。この軀の浦学園では、「**軀学**」という探求の授業を年間71時間も行われているようで、地域を素材とした課題発見・解決学習を通して、世界に視野を広げ、社会のために実践する力を育む教育をされています。外部の専門家にプロボノ\*として授業を担当していただき、「**軀のくらしの診療所**」の活動もその一環として歓迎されていました。

\*プロボノ=職業上のスキルや経験を生かして取り組む社会貢献活動

#### <軀のくらしの診療所>

2019年に軀の浦ならではの地域診断を行うことを目的に30代の若手の人たちが結成した団体です。地域住民の医療へのハードルを下げ、健康への意識を高めるために、平岩代表が軀の浦学園の校医になったのをきっかけに、子どもたちの健康意識を高めることで、地域の健康課題をみつけて解決に取り込もうと考えられました。

（井上）